

◆看護研究相談・支援

《 常時 看護研究相談・支援の広報と実施 》

【実績】

- ・小規模病院等看護職の研究能力の向上と看護実践への波及を目指し、看護研究相談・支援について企画し、チラシ配布の他ホームページに看護相談・支援事業についての「病院施設等用手引き」を掲載した。また、看護研究相談事業には多くの看護学科教員が指導に携わってくることになることから、「看護研究相談・支援事業 看護学科教員用手引き」を作成し、看護学科の全教員に対して配布、看護研究相談の協力依頼とともに、周知を図った。
- ・看護研究相談を受け、看護研究相談を実施した。
- ・相談への対応の他、小規模病院で看護研究について講義等も実施した。

【成果】

- ・看護研究相談の申込みは 25 件、その病院等数は 14 件であり、同一病院から複数件数の申込みがあった。病院等の内訳は、診療所 3 件、99 床未満の病院が 4 件、100～150 床 7 件、150 床以上 11 件であった。相談回数は延べ 92 回、相談方法は、面談 33 回、メール 38 回、FAX13 回、電話 5 回、郵送 3 回であった。成果として、学会発表 3 件、院内研究発表 12 件であり、継続中は 7 件となった。
- ・研修会開催等の支援は、依頼病院数 3 件、開催回数は 5 回であった。研修の内容は、看護研究の進め方、テーマの絞り方、研究者への支援のしかた、研究のまとめ方、等で、すべて依頼先の希望に沿って実施した。
- ・平成 27 年度末に看護研究相談を受けた病院等に対して調査したところ、「満足できた」の回答が殆どを占め、小規模病院等の看護職の方々の、看護研究相談に対するニーズに対応できたといえる。

【実施上のポイント】

- ・依頼者の質問には、タイムリーに応じる。
依頼者の質問には、できるだけ早く応じることで信頼関係を樹立にもつながる。又この時にはできるだけ、解説を具体的・丁寧に加筆することで、理解力アップにつなげる。
- ・依頼者の意向に沿った支援を実施する。
小規模病院における看護研究は、実際に臨床現場にある問題に焦点を当てることが多い。このため、業務改善が主であったり、量的研究なのに数が少数だったり、質的な分析がうまくいかないなどの問題が生じることが多い。しかし、依頼者側が明らかにしたいと思う看護研究が展開でき、達成感が得られるような支援を実施している。
- ・大学側が依頼先に出向いて、支援を実施する。
研究指導の基本は、対面で研究目的を十分に検討することで、より効率的なものになる。実際に現場に出向いての指導は、支援する側の負担が大きいが、書面でのやり取りに費やす時間よりも短時間で確実に支援の実施が可能である。
- ・依頼先の職員が集まりやすい時間に合わせて、時間設定をする。(例えば、平日の勤務終了後)
臨床における看護研究は、看護師にとって時間的・精神的負担が大きい。この負担を解消するには、依頼先が都合の良い時間帯や場所を設定することで、負担が少しでも軽減できるように考慮する。